北海道教育大学学術リポジトリ
Hokkaido University of Education Repository
国立大学法人 北海道教育大学
HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION

巻頭言:教職大学院生、修了生に期待するもの -紀要第3号の刊行によせて-

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2014-07-29
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 大久保, 和義
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/9486

巻頭言

教職大学院生、修了生に期待するもの

― 紀要第３号の刊行によせて ―

大久保　和　義*

高度教職実践専攻研究紀要第３号の刊行に当たって、一言述べさせていただきます。

本学に教職大学院が設置されてから５年が経過し、この間、修了生も約150名に達し本道の教育界を中心にご活躍されています。第３号の特集として「教師の成長と教職大学院」を掲げ、教師の成長に関わって教職大学院の果たす役割を改めてとらえ直すことを目的としています。

昨年12月に行われた平成24年度日本教職大学院協会シンポジウムで、板東文部科学省高等教育局長が「新しい教職大学院に期待するもの」という題目で基調講演をされ、以下のことを話されました。

①（グローバル化や情報化、少子高齢化など）大きな社会の変化、子ども・教育を取り巻く状況の変化の中で、それらに対応する21世紀にふさわしい学びを支える教員の養成を目指す改革は急務である。

②教員養成を修士レベル化し、教員を高度専門職業人として位置付ける。

③教育委員会や学校と大学との連携・協働等の取組を推進する。（養成、採用、研修）

④中教審答申で提案された「学び続ける教員像」の確立を目指す教員養成の改革においては、教職大学院に大きな役割を期待する。

②は、ある程度のしっかりした力量を身につけて教員になり、その後も学び続けてほしいという趣旨で平成24年８月に中教審答申で提言され、また、④は学び続ける教員養成の中心として、教職大学院への期待が述べられています。そうした意味では、このことは本紀要のテーマとも合致し、時宜を得たテーマだと思います。

教職大学院では学校現場に生起する諸課題を、常に学校全体を視野に入れて、どうすれば解決へと導くことができるのか、様々な経験や事例を持ち寄り、理論的な検証を加えて、理論と実践を常に往還しながら教職実践についての高度な力量をつけていくことをねらいとしています。院生の皆さんは実際の学びを通して、そのことを実感しているのではないでしょうか。大学院での２年間の学びの成果をMOBにまとめること、それ自体、大変価値あることです。それと同時に、修了生の皆さんはその学びを通して研究的視点をもった教師へと成長していっていることと思います。

そこで、院生、修了生の皆さんへの提案です。大学院、学校現場で得られた研究成果を本研究紀要に積極的に投稿し、社会、とりわけ、学ぶ意欲を持っている教育実践者に還元していただきたいと考えます。また、今は大学院の院生や修了生が研究した成果を学会誌や学会、研究会等で発表する機会が大変多くなってきています。日本数学教育学会でも毎年論文発表会が行われていますが、発表の多くは大学院生、修了生によるものです。発表したことに関して参会者からいろいろな意見やアドバイス、次のステップに向けて関連する研究情報等の提供を得て、さらに研究を発展させています。本学教職大学院生、修了生の皆さんも「学び続ける教員」であるとともに、このような教育研究活動に積極的に参加されることを期待するものです。

---

* 北海道教育大学教職大学院（大学院教育学研究科高度教職実践専攻）札幌